

低コスト造林の推進・普及に向けて

地域課題の解決に向けた取組

留萌南部森林管理署

留萌地域では、トドマツ等の人工林の多くが間伐から主伐期を迎えつつある中、伐採された木材の有効利用が課題となっています。

加えて、伐採後の再造林箇所が増加する傾向にあり、植栽やその後の下刈など育林に係る経費が人件費や資材費の上昇もあり高くなる一方で、従事者の高齢化や担い手不足が深刻化しています。

このため、造林の低コスト化と省力化が地域の民有林・国有林共通の喫緊の課題となっています。当署では、国有林の事業現場を活用して、次のような低コスト造林の推進・普及に向けた取組を行っています。

下刈2回刈の省力化

(平成25～平成27)

造林コストの約3割を占める下刈において、植栽木が小さい時に行っている年2回の下刈を1回刈にできないかという取組で、刈払回数毎に3年間継続調査を行い、そのデータから適期での1回刈に省略可能と判断しています。



下刈り2回刈り省力化の調査

伐採・コンテナ苗植栽に係る一貫作業(平成26)

平成26年に当署では初めて伐採から植栽までの一貫作業を行いました。

一貫作業は、伐採・搬

出と同時に地拵・植栽を行う作業システムであり、伐採等に用いる機械を造林作業に活用することやコンテナ苗の利用も含め作業の効率化・低コスト化が図られます。

併せて民有林関係者を交えて現地検討会を開催し、大型機械地拵やコンテナ苗植栽を演習して意見交換を行い、機械の効率的な活用や、活着がよく植付時期を選ばないコンテナ苗のメリットについて情報共有を図りました。

特にコンテナ苗を初めて見る人が多かったため、高い関心が寄せられ、今後の民有林への活用に向け意義あるものと感じています。

さらに、27年の留萌振興局との現地検討会では、

コンテナ苗と普通苗の植栽箇所を比較した生長調査結果について意見交換を行うなどフォローアップをしています。



一貫作業での大型機械地拵

一貫作業と低密度植栽の取組(平成28)

本年は、さらなる低コスト化の試みとして、一貫作業の植栽においてh

a当たり植栽本数で通常の2500本のほか、低密度植栽として1500本、1000本の植栽に取り組みました。9月の民有林関係者等

この現地検討会ではこれらの箇所を比較し意見交換を行い、植付コストの削減に向けた情報共有を図りました。



一貫作業と低密度植栽の現地検討

これらの取組については、今後も実証や追跡調査を継続的に行い、そのデータを民有林関係者に情報提供する考えであり、国有林の技術力が民有林支援の一助となり、地域でより効率的な森林整備が図られ林業の成長産業化に繋がっていくよう期待しています。